

「播磨国風土記」の世界  
 宍粟郡を巡る①

「風土記」と宍粟郡

2005年、宍粟郡の四町、山崎町・一宮町・波賀町・千種町が合併して誕生した宍粟市は、奈良時代「宍禾郡」と呼ばれていました。その宍禾郡の様子を知ることができなのが、「播磨国風土記」です。

和銅六年(713)、大和朝廷から出された命令に基づいて、それぞれの国が産物や土地の状態、地名由来などを調べて報告書を提出しました。この報告書が後に「風土記」と呼ばれるのですが、約60ヶ国の中で報告書の写本が残っているのは、出雲・播磨・常陸・肥前・豊後の5ヶ国だけです。

「播磨国風土記」(以下、風土記と記す)によると、宍粟郡の郡名は、伊和大神という神様と鹿との出会いに因んで付けられました。国作りを終えて山野を巡り歩いていた大神の前に、舌を出した大きな鹿が出現。大神は「矢が鹿の舌にある」と言い、出会った場所は「矢田の村」と名付けられます(現在地は不明)。そして、その村のある郡は、「鹿(しし)」に「遇(あ)」われた、「シシアハ」から「しざわ」と呼ばれるようになったとか。鹿は風土記によく登場し、古い神の象徴ともいわれます。

伊和大神は播磨の国独自の神で、「古事記」や「日本書紀」には出てきません。この神の名を冠した神社が、一宮町須行名に鎮座する伊和神社です。平安時代の「延喜式」神名帳に「伊和坐大名持御魂神社」として載っており、一宮町の町名は伊和神社がその国でもっとも格式の高い神



社、一宮に任じられたことから生まれました。伊和大神は、播磨の古代史を考える上で大切な神さまで。比治里・高家里・柏野里・安師里・石作里・雲筒里・御方里という、7つの里があつた宍粟郡。各地に残る伊和大神の足跡を中心に、宍粟市の史跡を訪ね、1300年前の風土記の世界を巡ってみたいと思います。

(播磨学研究所研究員 植岡真弓)

おいでよ図書館へ



宍粟市立図書館 ☎ 62-4620

蔵書検索ご案内

市HPの宍粟市立図書館ページから、市内4図書館の本の検索ができます。検索した本を予約する場合は、図書館へ電話でお申し込みください。

今月のオススメ



NHK Jappon no Risan  
ふるさとの絶景100

監修・写真/今森 光彦

ホタルの飛び交う棚田、緑の繭が生まれる森、南国の蝶の庭...。人と里山生物が共存する美しい日本のふるさとの数々を写真と共に紹介します。

図書館カレンダー

☐ 休館日 ☑ 館内整理日(休館)

【開館時間】午前10時~午後5時30分

	日	月	火	水	木	金	土
5月						15 16 17	
	18	19	20	21	22	23 24	25
	26	27	28	29	30	31	
6月	1	2	3	4	5	6 7	8
	9	10	11	12	13 14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

みんなで楽しめる高齢者の  
 年中行事&レクリエーション

著者/尾渡 順子

介護の現場で役立つ  
 簡単に楽しいレクリエーションを、イヘントや季節ごとに紹介。進行の仕方や小物の作り方まで細かく載っています。

編集後記

今年のゴールデンウィークも市内は多くの人出で賑わいました。その取材中の光景です。市外から来られたと思われる車(何となく分かりますよね)が、目的地を探しながらゆっくりと走られていました。当然、道路は渋滞気味です。でも、後続車(ほとんどは地元の方だと思います)は、クラクションを鳴らし急がせる様子もなく、むしろ優しく見守っている感じがしました。これを見て「あー、これも立派な“おもてなし”だな」とほっこりした気持ちになりました。こうした何気ない優しさが溢れているのも宍粟の良いところですね。広報紙でも出来る限り伝えていければと思っています。

真